

平成 27 年 1 月号

メンバー、ボランティア、学生
みんな仲間!

けやきと仲間 めーる



こころの病と闘っている人々と千葉大学生や周囲地域との協働の会 地域活動支援センター「けやきと仲間」

平成 27 年 1 月 1 日(第 117 号)



撮影 齋藤 毅さん

川
柳

寒くても勇気を出してけやき行く

寒すぎて懐かしくなるぬくもりが

選挙戦 AKB を見習えよ

2 週間実習したら 2 キロ増

実習は記録の山で遭難だ

実習で息抜きなんてできないよ

今年こそ私の番だよ宝くじ

来年はバイト探してハワイ行く

ひびく年枕恋しい歳になる

～けやきと仲間の皆さん、ありがとうございました～

流尾 哲也（園芸、歌唱、ボウリング指導ボランティア）

昨年の12月10日には皆さんの忘年会で私の送別会までしていただき、立派な花束をありがとうございました。病氣療養中で夕方には疲れが出るので楽しいカラオケの途中で残念でしたが一足先に失礼しました。

平成25年12月末に肝臓がんが見つかり、それから1年間の闘病生活でした。手術後、9月末から抗がん剤を服用するようになって体のあちこちに副作用も出たり治ったりです。今後は治療に専念したいので、最後に残ったボウリングも含めて「けやきと仲間」でのボランティア活動は引退させていただきました。私と「けやき」との出会いは、関東地区の園芸福祉士の研修会で当時の藪下理事長と会ったことでした。藪下さんからけやきでの園芸の指導を頼まれて、園芸福祉を实践する場所を探していた私もお手伝いすることになりました。その当時はまだ草ぼうぼうだった千葉大構内での「園芸」のフィールドも、先人の千葉大の学生さんだった本田さんの後を引き継いで、皆さんといかにして雑草や小石を減らすかの戦いに明け暮れましたが、今ではずいぶんときれいな畑になりましたね。

園芸では「苗半作」という言葉があります。野菜などの苗がよくできれば、その作物の収穫は半分約束されたようなものだと言う意味です。だからこそ種まきは丁寧にしようねと頑張ってきましたね。今は、中野さんの指導と、また自分で育てた苗を持参していただくことも多く苗作りが楽になりましたね。気持ちよく晴れた日の畑での園芸作業の合間に流れ来る馬田さんの美しい歌声や、今は亡き日高晴子さんの草取りの手を休めずに続く人生相談のようなおしゃべりが思い出されます。80歳を越えた体で鍬も振り下ろす元気さに驚きましたが、病気で亡くなられてもう2年になります。「千の風になって」の歌が大好きだったから、今でも空の風になってけやきの畑を見おろしていることでしょう。気がかりなのはハーブに詳しいボランティア仲間の馬田さんはお母様やご主人のお世話で、また西山さんもご自身の怪我に加えて介護もありなのではいでしょうか、しばらくお休みとも聞きます。お二人で丹精込めて作り上げたハーブガーデンに、いつまでも美しく良い香りの花が咲き続けてくれるといいですね。メンバーさんに鍬の持ち方から教えた中で、I君は特別に農作業が上手で私が教えた以上に自分で工夫して試すので感心していました。そのI君は自立してけやきを巣立ちましたが、知らせの手紙をもらった時はうれしかったです。

「みんなで歌おう」の歌唱指導も、私が歌を歌っていることを知った藪下さんから頼まれて始めました。歌の時間には若い人が知らないようなそれぞれの季節の童謡や唱歌も含めて多く歌いましたが、だんだんメンバーさんのリクエスト曲にも取り組むようになると伴奏楽器無しで歌うことの難しさや限界も感じました。武ノ上さんには音源探しでお世話になりましたね。80曲余りの楽譜は「みんなで歌おう」の分厚いファイルが出来て思い出として残っています。

ボウリングでは、初心者はいずれ遠くにある10本のピンをめがけて球を投げがちですが、あくまでねらいはレーンの近い所にあるスパッツ(▲の目印)ですので、投球前にスパッツから目を離さない事ですね。人生でもあまり遠くのことを考えると難しいですが、まずは近い将来をどうしようかと考えた方がやりやすいですよ。来年の初夏には体調を見て再開を考えていますのでメンバーの皆さんは練習を続けてください。私にゲームで勝つと宣言してついにはかなわなかったN君も半年後には若いから上達していることでしょう。

皆さんはケヤキの木の種子を見たことがありますか？ケヤキは大きくなる木ですが、高い枝先にできるその種子はソバの実ほどもない小さなものです。秋に種子が熟して、種がばらばらに下に落ちたのでは親木の日影に芽を出すことになってうまく育ちません。そこでけやきは写真のようなケヤキの小枝という「ノアの箱舟」に乗って、葉の付いた小枝ごと風に乗って(ケヤキの葉の付け根の小さなのが種子)仲間と一緒に遠くの日当たりのよい新しく育つ場所を目指します。メンバーの皆さんもケヤキの旅立ちのように、「けやきと仲間」で学んだり経験したりしたことを活かして、種を乗せたケヤキの小枝が風に吹かれて新天地に向かうように、けやきの仲間と連れ立って新しく生活できる場所に根付いて自立できる日が来ることを願ってやみません。



～忘年会及び流尾さんの送別会～

12月10日(水)総勢24名の参加でした。12時～18時まで開催し、14時から流尾さんの送別会を同時に行い、ピザやパスタ等の洋食を楽しみました。流尾さんの語り付きの忠臣蔵の歌や、榎さんのギター演奏に合わせた福田さんとのコラボレーションの「アメイジング・グレイス」、それぞれの世代や好みに合わせた色々な曲が歌われていました。全員で合唱した「上を向いて歩こう」は「勇気の出る歌詞だね」と話す人もいて好評でした。合い間にジングルベルに合わせたプレゼント交換等もしました。遅めに来る人、早めに帰る人、初めての参加で緊張気味の人、最初から最後まで楽しみきった人もいたりして、写真でお分かりのように楽しい会でした。



～バス旅行(柴又方面)～

千葉大学看護学部の実習生、ネパールから来ている留学生と一緒にいきました、以下実習生の方たちのコメントです。

- ・バス旅行などにはご家族も参加でき、ご家族もこの場を利用し外に出て他人とお話をしリフレッシュできているのではないかと感じた。
- ・個人行動には、その人の特徴が出て、一人ひとり楽しんでいて、しかもその人なりの楽しみ方(写真を撮ったり、食べたり)があり、それぞれの個性が出ているなと感じました。
- ・見たいもの、食べたいもの、行きたい所等意見を主張している姿が多くみられ、主体性を持って参加していることが分かった。
- ・住んでいる環境や生活が全く違うネパールからの留学生と接する機会も良い刺激になったと思いました。
- ・少しずつ利用者さん達の強みが見えてきたので、明日以降はより多くの強みを見つけ、それを伸ばす関わりをしていきたいです。



ぴなっちゃん

けやきと仲間 No. 26号

